

# 平成31年度全国学力・学習状況調査の結果について

大山町教育委員会

平成31年4月18日に実施した「全国学力・学習状況調査」の大山町の結果について公表します。

今年度、この調査は、国語と算数・数学、英語（中学校のみ）の3教科についての調査であり、児童生徒の学力の全てを見ることはできませんが、町内の各学校ではこの結果を一つの手がかりとし、成果と課題を明らかにして今後の教育活動に生かしていこうとしています。

大山町教育委員会では、学校の取組の進捗状況を把握しつつ、より質の高い教育の実現に向けて取り組んでいきます。

## I 調査の概要

### 1 調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2 調査対象

小学校第6学年、中学校第3学年の全児童生徒

### 3 調査内容

#### ア 教科に関する調査

- (ア) 小学校調査は、国語及び算数とし、中学校調査は、国語、数学及び英語とする。
- (イ) 出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの学年・教科に関し、以下のとおりとする。
  - ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
  - ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容
- (ウ) 調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。出題形式については、国語及び算数・数学においては、記述式の問題を一定割合で導入する。英語においては、「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと」、「書くこと」に関する問題を出題し、記述式の問題を一定割合で導入するとともに、「話すこと」に関

する問題の解答は、原則として口述式によるものとする。

#### イ 質問紙調査

調査する学年の児童生徒を対象に、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査（以下「児童生徒質問紙調査」という。）を実施する。

#### 4 調査日時

平成31年4月18日（木）

#### 5 大山町の参加状況

○参加学校数 7校（小学校4校、中学校3校）

○参加児童生徒数 247人（小学校6年生114人、中学校3年生133人）

#### 6 調査結果の処理

○学力調査・質問紙調査の結果とも、国がデータ処理したものと大山町が独自にデータ処理したものを使用しています。

※ 結果の分析に当たって、国・県と比べて平均正答率等の差に応じて次のように表現しています。

・差が1%未満の場合、「ほぼ同等」

・差が1%以上 5%未満の場合、「やや高い(低い)」「やや多い(少ない)」「やや大きい(小さい)」

・差が5%以上 10%未満の場合、「高い(低い)」「多い(少ない)」「大きい(小さい)」

・差が10%以上の場合、「かなり高い(低い)」「かなり多い(少ない)」「かなり大きい(小さい)」

## II 教科に関する調査結果

### 1 小学校

データ1 学力調査結果（小学校）

#### （1）小学校全体について

○県全体の平均正答率は、国と比較して国語、算数はほぼ同等である。

○大山町全体の平均正答率は、国と比較して国語、算数ともにやや高い。また、県と比較しても、国語、算数はやや高い。

## (2) 国語について

- 学習指導要領の領域等「読むこと」、評価の観点「読む能力」の平均正答率が、国や県と比較して、やや高い。(国+1.0%、県+1.9%)
- 学習指導要領の領域等「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」、評価の観点「言語についての知識・理解・技能」の平均正答率が、国や県と比較してやや高い(国+3.5%、県+4.9%)
- 問題形式「選択式」「短答式」「記述式」のいずれにおいても、平均正答率が、国や県と比較してやや高い。(「選択式」国+1.1%、県+1.7% 「短答式」国+2.0%、+3.7% 「記述式」国+3.8%、県+2.8%)
- 全体の平均正答率において、学校間の差がかなり大きい。(国語 差 19.0%)
- 学習指導要領の領域等「書くこと」、評価の観点「書く能力」において、学校間の差がかなり大きい。(差 33%)
- 問題形式「記述式」において、学校間の差がかなり大きい。(差 17.7%)

## (3) 算数について

- 学習指導要領の領域等「数と計算」の平均正答率が、国や県と比較して高い。(国+5.6%、県+6.0%)
- 学習指導要領の領域等「数量関係」の平均正答率が、国と比較してやや高く、県と比較して高い。(国+4.1%、県+5.1%)
- 問題形式「短答式」の平均正答率が、国や県と比較して高い。(国+6.0%、県+6.4%)
- 学習指導要領の領域等「量と測定」において、学校間の差がかなり大きい。(差 16.1%)
- 評価の観点「数学的な考え方」において、学校間の差がかなり大きい。(差 16.5%)
- 問題形式「短答式」において、学校間の差がかなり大きい。(差 18.4%)

## 2 中学校

### データ 2 学力調査結果 (中学校)

#### (1) 中学校全体について

- 県全体の平均正答率は、国と比較すると国語、数学においてほぼ同等である。英語はやや低い。
- 大山町全体の平均正答率は、国と比較して、国語でやや高く、数学、英語はやや低い。また、県と比較すると、国語でやや高く、数学でやや低い。英語はほぼ同等である。

## (2) 国語について

- 学習指導要領の領域等「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」、評価の観点「言語についての知識・理解・技能」の平均正答率が、国や県と比較して高い。(国+5.2%、県+5.1%)
- 問題形式「短答式」の平均正答率が、国や県と比較してやや高い。(国+3.4%、県+4.0%)
- 全体の平均正答率において、学校間の差がかなり大きい。(差 12.0%)
- 学習指導要領の領域等「話すこと・聞くこと」、評価の観点「話す・聞く能力」において、学校間の差がかなり大きい。(差 10.9%)
- 問題形式「選択式」において、学校間の差がかなり大きい。(差 14.3%)

## (3) 数学について

- 学習指導要領の領域等「図形」の平均正答率が、国や県と比較して低い。(国-5.9%、県-5.1%)
- 問題形式「選択式」の平均正答率が、国や県と比較してやや低い。(国-2.7%、県-3.3%)
- 全体の平均正答率において、学校間の差がかなり大きい。(差 16.0%)
- 学習指導要領の領域等「数と式」において、学校間の差が大きい。(差 21.2%)
- 評価の観点「数学的な技能」において、学校間の差がかなり大きい。(差 20.3%)
- 問題形式「記述式」において、学校間の差がかなり大きい。(差 25.7%)

## (4) 英語について

- 学習指導要領の領域等「読むこと」の平均正答率が国と比較してほぼ同等で、県と比較してやや高い。(国+0.5%、県+1.2%)
- 学習指導要領の領域等「書くこと」の平均正答率が、国と比較してやや低く、県と比較してほぼ同等である。(国-3.6%、県-0.8%)
- 評価の観点「言語や文化についての知識・理解」の平均正答率が、国と比較してやや低く、県と比較してほぼ同等である。(国-2.6%、県-0.5%)
- 問題形式「短答式」の平均正答率が、国と比較して低く、県と比較してやや低い。(国-5.0%、県-1.5%)
- 全体の平均正答率において、学校間の差がかなり大きい。(差 12.0%)
- 学習指導要領の領域等「書くこと」において、学校間の差が大きい。(差 16.4%)
- 評価の観点「言語や文化についての知識・理解」において、学校間の差がかなり大きい。(差 13.7%)
- 問題形式「短答式」において、学校間の差が大きい。(差 15.5%)

### Ⅲ 児童生徒質問紙調査の結果（Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ共通）

#### 1 小学校

##### データ3 小学校児童質問紙回答結果集計

#### （1）鳥取県と国を比較して、大きな差が見られる項目

- ・ 住んでいる地域の行事に参加している割合・・・国より 13.3%高い
- ・ 国語の授業で学習したことを、普段の生活の中で、話したり聞いたり書いたり読んだりするときに活用しようとしている割合・・・国より 11.2%高い
- ・ 算数の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考える割合・・・国より 10.3%高い
- ・ 算数の勉強が好きな割合・・・国より 5.5%低い

#### （2）大山町全体の傾向（肯定的な回答の割合の比較）

##### ○県と比較して、10%以上高い項目

- ・ 解答時間は十分である（国語）
- ・ 解答時間は十分である（算数）

##### ○県と比較して、5%以上高い項目

- ・ 学級のみみんなで話し合っって決めたことなどに協力して取り組み、うれしかったことがある
- ・ 総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる
- ・ 学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいると思う
- ・ 道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいると思う
- ・ 国語の勉強は好きだ
- ・ 国語の授業では、目的に応じて、自分の考えを話したり書いたりしている
- ・ 算数の勉強は好きだ

##### ○県と比較して、5%以上低い項目

- ・ 毎日、同じくらいの時刻に寝ている

##### ○県と比較して、10%以上低い項目

該当項目なし

##### ○学校間の差が25%以上の項目

- ・ 毎日、同じくらいの時刻に寝ている

- ・ 自分には、よいところがあると思う
- ・ 学校に行くのは楽しいと思う
- ・ 読書が好きである
- ・ 地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある
- ・ 日本やあなたが住んでいる地域のことについて、外国の人にもっと知ってもらいたいと思う
- ・ 総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる
- ・ 5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していたと思う
- ・ 国語の授業で自分の考えを話したり書いたりするとき、うまく伝わるように理由を示したりするなど、話や文章の組立てを工夫している
- ・ 算数の勉強は好きだ
- ・ 算数で新しい問題に出合ったとき、それを解いてみたいと思う

## 2 中学校

### データ4 中学校生徒質問紙回答結果集計

#### (1) 鳥取県と国を比較して、大きな差が見られる項目

- ・ 先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思う・・・国より 10.2%高い
- ・ 学級みんなで話し合っただけで決めたことなどに協力して取り組み、うれしかったことがある・・・国より 8.2%低い
- ・ 今住んでいる地域の行事に参加している割合・・・国より 8.0%高い
- ・ 学校の部活動に参加している割合・・・国より 9.4%高い
- ・ 生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる・・・国より 5.2%高い
- ・ あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていると思う  
・・・国より 5.0%高い
- ・ 学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいると思う・・・国より 7.1%高い

#### (2) 大山町全体の傾向（肯定的な回答の割合の比較）

○県と比較して、10%以上高い項目

- ・ 数学の勉強は大切だと思う

○県と比較して、5%以上高い項目

- ・ 学級のみみんなで話し合っただけで決めたことなどに協力して取り組み、うれしかったことがある
- ・ 家で、自分で計画を立てて勉強している
- ・ 数学の授業の内容はよく分かる
- ・ 1・2年生のときに受けた授業では、自分の考えや気持ちなどを英語で書く活動が行なわれていたと思う

○県と比較して、5%以上低い項目

- ・ 自分には、よいところがあると思う
- ・ 先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う
- ・ 学校に行くのは楽しいと思う
- ・ 地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある
- ・ 外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知ったりしてみたいと思う
- ・ 日本やあなたが住んでいる地域のことについて、外国の人にもっと知ってもらいたいと思う
- ・ 国語の勉強は好きだ
- ・ 国語の授業で自分の考えを話したり書いたりするとき、うまく伝わるように根拠を示したりするなど、話や文章の組立てを工夫している
- ・ 英語の授業はよく分かる
- ・ 英語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う
- ・ これまで、学校の授業やそのための学習以外で、日常的に英語を使う機会（地域の人や海外にいる人と英語で話す、英語で手紙や電子メールを書く、英語のテレビやホームページを見る、英会話教室に通うなど）が十分にあった
- ・ 将来、積極的に英語を使うような生活をしたり職業に就いたりしたいと思う
- ・ 1、2年生の時に受けた授業では、スピーチやプレゼンテーションなど、まとまった内容を英語で発表する活動が行なわれていたと思う
- ・ 解答時間は十分である（国語）

○県と比較して、10%以上低い項目

- ・ 英語の勉強は好きだ
- ・ 解答時間は十分である（英語）

○学校間の差が25%以上の項目

- ・ 家の人（兄弟姉妹を除く）と学校での出来事について話をしている
- ・ 読書が好きである
- ・ 日本やあなたが住んでいる地域のことについて、外国の人にもっと知ってもらいたいと思う

- ・ 総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる
- ・ あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていると思う
- ・ 1、2年生の時に受けた道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいると思う
- ・ 国語の勉強は好きだ
- ・ 国語の授業では、目的に応じて、自分の考えを話したり書いたりしている
- ・ 英語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う
- ・ 1、2年生の時に受けた授業では、スピーチやプレゼンテーションなど、まとまった内容を英語で発表する活動が行なわれていたと思う

### 3 小学校と中学校の比較

#### データ5 質問紙調査結果の小学校と中学校の比較

##### (1) 大山町全体の傾向（肯定的な回答の割合の比較）

○中学校と比較して、小学校の方が10%以上高い項目

- ・ 自分には、よいところがあると思う
- ・ 先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う
- ・ 将来の夢や目標を持っている
- ・ 家で、自分で計画を立てて勉強をしている
- ・ 新聞を読んでいる
- ・ 今住んでいる地域の行事に参加している
- ・ 地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある
- ・ 外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知ったりしてみたいと思う
- ・ 日本やあなたが住んでいる地域のことについて、外国の人にもっと知ってもらいたいと思う
- ・ あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていると思う
- ・ 学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいると思う
- ・ 国語の勉強は好きだ
- ・ 国語の授業の内容はよく分かる
- ・ 国語の授業で自分の考えを話したり書いたりするとき、うまく伝わるように理由を示したりするなど、話や文章の組立てを工夫している
- ・ 算数（数学）の勉強は好きだ
- ・ 算数（数学）の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ

と思う

- ・ 解答時間は十分である（算数・数学）

○中学校と比較して、小学校の方が5%以上高い項目

- ・ 家の人（兄弟姉妹を除く）と学校での出来事について話をしている
- ・ 先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思う
- ・ 学級みんなで話し合っただけで決めたことなどに協力して取り組み、うれしかったことがある
- ・ 学校に行くのは楽しいと思う
- ・ 読書が好きである
- ・ 国語の勉強は大切だと思う
- ・ 国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う
- ・ 国語の授業で学習したことを、普段の生活の中で、話したり聞いたり書いたり読んだりするときに活用しようとしている
- ・ 国語の授業では、目的に応じて、自分の考えを話したり書いたりしている
- ・ 国語の授業で文章や資料を読むとき、目的に応じて、必要な語や文を見つけたり、文章や段落どうしの関係を考えたりしながら読んでいる
- ・ 解答時間は十分である（国語）

○中学校と比較して、小学校の方が5%以上低い項目

- ・ 学級の友達（生徒）との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている

○中学校と比較して、小学校の方が10%以上低い項目

該当項目なし

## IV 調査結果のまとめ

### 1 学力調査結果について

- (1) 小学校においては、国や県と比較して国語、算数ともにやや高い平均正答率となっている。

国語科では、学習指導要領に示された4領域すべてでやや高い正答率を示している。単元をつらぬく言語活動を大切に授業づくりの成果が出ていると思われる。

算数では「数と計算」、「量と測定」、「数量関係」の3つの領域において成果が見られた。特に「数と計算」領域においては、国や県よりも5ポイント以上

高い正答率を示すことができた。授業のねらいに沿った適用題を用意することや児童の習熟度に応じた適用題を用意するなど、適用題の質と量を意識した取り組みが成果となって表れていると思われる。

また、朝学習や放課後学習の取り組み、家庭学習の取り組み等、学校組織としての取組が児童の学力向上に果たした役割は大きいと思われる。

- (2) 中学校においては、国や県と比較して国語でやや高い平均正答率となり、数学でやや低い平均正答率となっている。英語については国よりもやや低い正答率となっており、県と比較するとほぼ同等の正答率となっている。

国語については、4領域全ての項目で、国や県を上回っている。特に、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」については5ポイント以上、上回っており、小学校から続いている「言語活動を大切にしたい授業づくり」を進めてきた成果だと考えられる。

数学は、「図形」領域が大きく下回っている。証明の根拠となる合同条件を導き出すことはできるが、与えられた予想に対する反例を答えることができなかった。また、結論が成り立つための前提を考えることも非常に苦手としている。形式的な処理により証明問題を完成させるのではなく、根拠を明確にししながら、証明に取り組ませることが大切である。

英語については、多くの項目で国の平均正答率を下回っているが、特に「書くこと」領域においての低下が目立っている。与えられた情報に基づいて、3人称単数現在時制の肯定文や否定文を正確に書くことができない生徒が多い。昨今英語によるコミュニケーションを重視する傾向がより一層強くなっていると思われるが、文法を学ぶこと、特にノートに書いて学ぶことの大切さを再認識する必要があるのではないかと思われる。

- (3) 学校間の平均正答率の差については、小学校では国語 19%、算数 12%の差となり、中学校では、国語 12%、数学 16%、英語 12%の差となっている。

領域別に見ると、小学校国語では「書くこと」領域において 33%の差があり、算数では「数量関係」において約 14%の差となっている。

また、中学校国語の「話すこと・聞くこと」の領域で約 19%もの差となっており、数学の「数と式」の領域では約 21%、英語の「書くこと」領域では約 16%の学校間格差が生じている。

各学校が自校の結果をしっかりと分析し、学級経営や生徒指導を含め、日々の授業改善に取り組むとともに、放課後学習や家庭学習などとの関連を図り、学習内容を定着するための反復徹底を図るサイクルの構築が必要である。

校区の小・中学校が9年間を見通した生徒像を共有し、今回の調査で見えてきた課題を共有し学力向上に取り組むことが重要である。

## 2 質問紙調査結果について

- (1) 小学校においては、「自分には、よいところがあると思う」の肯定的な回答割合が昨年同様、国や県よりもやや低い結果となり、「学校に行くのは楽しいと思

う」の肯定的な回答割合は、国や県より約 5%低い結果となっている。子ども達の自尊感情や自己有用感を高める取組の早急な改善が必要であると思われる。

一方で、「学級活動における学級での話合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいると思う」などの学級活動の取り組みに関する項目は、国や県より概ね高い結果を示している。

- (2) 中学校においては、「家で、自分で計画を立てて勉強している」の項目において、肯定的な回答割合が国や県よりも高い。小学校での自主学習ノートの取組や中学校での定期考査にむけた取組、大山町版家庭学習の手引きの活用など、小中連携の中での様々な取組が成果となって表れている。また、「今住んでいる地域の行事に参加している」の項目では、肯定的割合が国よりも高く、県よりもやや高い結果となっている。各学校で取り組んでいる「ふるさと学習」が成果となって表れている。

一方で、「英語の勉強は好きだ」の肯定的割合が国や県と比較してかなり低い結果となっている。「できる」「わかる」授業の取組が急務となっている。授業中は生徒の学びをしっかりと見取ること、また、授業アンケートや学校評価アンケートなどを通して、生徒のつまづきをしっかりと把握することが大切になってくると思われる。